

先生たちの「おすすめ本」紹介と読み聞かせ

1 活動の概要

11/1～11/8の読書週間の初日に実施した。学力学習状況調査や各家庭のアンケート結果から、家庭で活字に触れる機会が年々少なくなっていることから、学校で読書機会の確保を目指し取り組んでいる。学校図書館にある本の中から先生がおすすめしたい本を選ぶだけでなく、図書館司書が学年に応じた選書をしている。

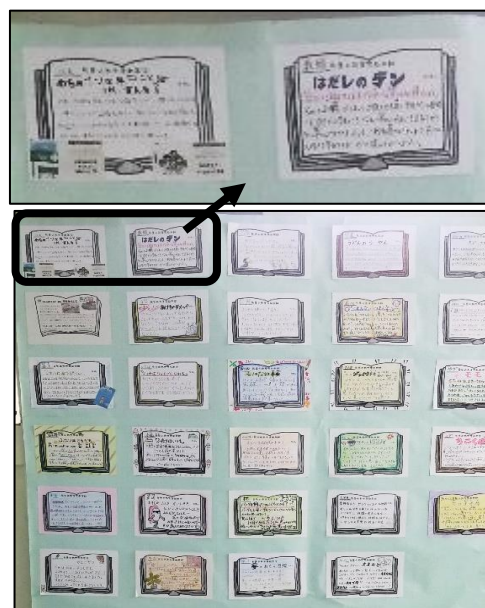
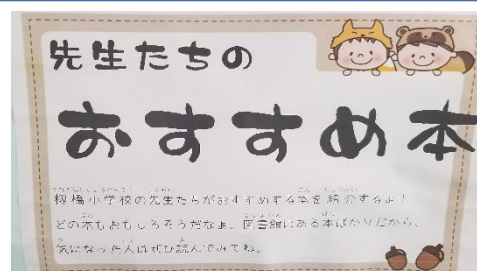
2 活動の状況、実際

【目的】

- ・本への興味関心を育て、図書室へ足を運ぶ、きっかけづくりをする。
- ・日常の中で触れることのない本に出会い、多彩な本のジャンルに興味を持ち、読書活動の充実をめざす。

【方法】

- ・朝の放送で、「先生たちみんなのクラスに、すてきな本をプレゼントしに来てくれます。教室で楽しみに待っていてください」開始される。児童はワクワクしながら、教室で先生が来るのを待っていた。
- ・学級担任は異学年交流級を担当し、級外の先生の担当は、クラスをくじ引きで決定する。一クラスに2名の先生が行くこともある。



3 参加者、指導者等の声

各学年教室前には、国語や社会、総合的な学習の時間等、授業に対応した、たくさんの本が紹介されていた。

- ・掲示しているおすすめ本の紹介コーナーで足を止めてじっくりと読んでいる児童が多く見られ、本に対する興味が広がったように感じた。
- ・担任以外の先生から本を読んでもらえるのが新鮮なのか、どの子も目を輝かせて読み聞かせを聞いていたのがよかった。
- ・自分たちがあまり手に取らないジャンルに触れる機会があり良かったと感じた。
- ・児童が様々な本に触れることで、自校の図書館に対して興味が湧いたり、「こんな本があったんだ！」と新しい発見をしたりすることができたと感じる。
- ・クラスの先生だけでなく、他のクラスの先生とも本に親しむことで、本を読んでみようという気持ちになった児童がいると思う。低学年は特に、そういう機会が増えたらいい。1学期に1回学年間で交換して本を読むなど、できたらよい。